



『地域連携活動と学科・教科間連携による学びの充実』

校長 一ノ瀬 淳

42日間の夏休みはいかがだったでしょうか。

農場実習や製造実習、造園技能検定、集団調理、被服製作などの専科実習、部活動にしっかりと取り組むことはできたでしょうか。また、3年振りに行動制限がない夏休みということもあり、家族で久しぶりに旅行や帰省をした人もいたのではないのでしょうか。

学校は、未来の生徒像である「夢を創造する農業・家庭のプロフェッショナル」を目指し、スクールミッションを確実に達成していくために、東京都教育委員会 西部学校経営支援センター特別指定校事業の申し込み、指定を受けることになりました。

コロナウイルス感染症のため、この数年実施できていなかった地域連携活動を再構築させ、学科と教科が連携した授業や取組を新たに行い、生徒の皆さんが持っている興味、関心を引き出し、専門性を深め、学びの充実を図っていきたいと考えています。農工大や府中市との連携による地域資源を活かした学習と、5つの専門学科と普通教科のコラボレーションによる学習で、皆さんが主体的に勉強する力・学びに向かう力の育成を目指していきます。ぜひ、今まで以上に、座学や実習に励んでもらえたらと思います。

2学期は、3年生にとっては、進路を決定する大切な時期になります。最後まで全力で取り組んで下さい。困った時や悩んだことがあった時には、一人で抱えずに友人や保護者、先生方へ相談して下さい。1、2年生にとっても、最も期間が長い学期です。学びの充実を図るとともに、11月の農高祭に向けて、クラスや学科がまとまれるような学校生活を送れるようにしてください。

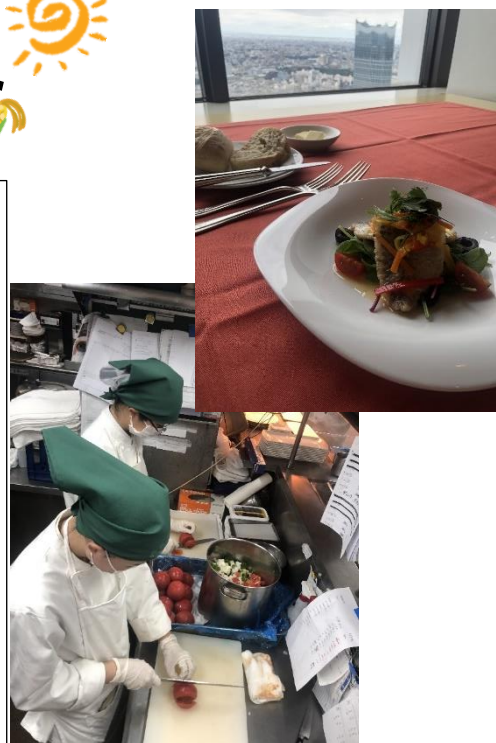
夏休み中の取り組み

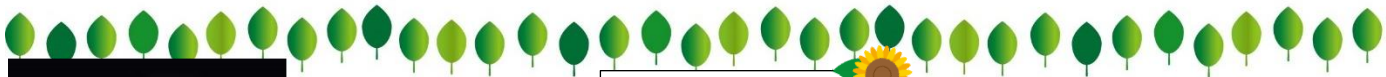
食物科

「Wine&Dining デューク新宿」というレストランで、インターンシップを行った生徒2人の感想を紹介します。

◆5日間のインターンシップを通して西洋料理の食材の扱いから料理、盛付まで、現場で沢山のことを学びました。すべてが新鮮で、料理に対する意識がさらに強くなり、現場のシェフのような素敵な調理師になりたいという目標が、より一層明確になりました。

◆インターンシップでは沢山の貴重な体験をしました。学校の実習と実際の現場は全然違いました。将来について具体的に考えるきっかけにもなりました。この体験で得られたことを今後の学校生活に活かしていきたいです。





服飾科



8月28日、服飾科3年生はファッション甲子園に出場しました。2,108作品のデザイン画の中から33作品が選ばれるという難関を突破し、本選に向け一生懸命に製作しました。入賞はしませんでしたが出場した3年生は「ファッション甲子園に来ることができて本当に良かったと話してくれました。

この夏は文化祭に向け、1年は小物製作、2、3年はファッションショーの衣装づくりに費やした夏でした。

都市園芸科



各学年4日間の夏季実習を行いました。猛暑の中での農場管理を行い、一回り成長したように思えます。3学年は7月25日に神代農場で実習を行いました。昨年10月に植えたワサビの収穫、雑木林の下刈り、養殖しているヤマメを捕獲し、ホイル焼きにして食味確認を行いました。また、1学年は科目「人間と社会」で、東京農工大学の連携授業を2回実施し、7月29日に「イネの生育調査」、8月24日に「圃場と牛舎の見学」を行いました。



緑地計画科



夏季実習で学年や専攻に分かれそれぞれ、造園技能検定の受検や管理実習、圃場の整備実習を実施しました。炎天下での実習でしたが暑さに負けず元気に取り組みました。造園技能検定は2級、3級が行われ、2、3年生の技術専攻の生徒が挑戦しました。管理実習では卒業庭園の除草作業や樹木の刈り込みを行いました。

1年生は圃場の整備を行い、秋に作物を栽培する準備をしました。



食品科学科



2日間の実習で「べにふうき」という品種の茶葉を使用して、和紅茶の製造に取り組みました。1日目に、茶畑の管理と、茶葉の収穫を行い、風通しの良い場所に広げ萎凋させ香りを引き出します。

2日目は、手で葉に圧をかけながら水分を取り除く柔捻を行い、袋に入れて発酵を促します。その後、機械で乾燥させ仕上げを行いました。

その他にも、食パンの製造や文化祭の試作などを行うことで、より集中的に専門的な技術や知識を学ぶことができました。

